

令和3年度ふくしま女性活躍応援会議議事概要

日時：令和3年11月12日（金）
13時10分～13時30分
場所：ビッグパレットふくしま
プレゼンテーションルーム

1 開会

2 挨拶

3 議事

議事（1）女性活躍推進に向けた主な取組状況について（報告）

（山ノ内男女共生課長から、資料1に基づき、女性活躍推進に向けた主な取組状況について説明）

（引き続き、福島労働局とアカデミア・コンソーシアムふくしまから取組状況について説明）

○福島労働局 河西直人局長

福島労働局では、誰もが働きやすい魅力ある職場づくりを推進するという一方で、労働基準監督署、ハローワークと一体となって取組を進めているところです。今年度における取組で特徴的なものについて説明いたします。まず、女性活躍の推進に関しましては、来年4月から労働者数が101人以上の企業等において、女性の職業生活における活躍の推進に関して行動計画を策定し、労働局に届け出ることが女性活躍推進法により義務づけられております。これまでその周知に努めてきたところですが、今後は個別に文書を送付して今年度中に、対象となる事業主の方全てが計画の策定、届出を行うよう働きかけを行ってまいりたいと思います。また、女性活躍の推進の取組が優良な企業を今年度においても、労働局として2社認定しております。女性活躍の機運をさらに高めるために、認定企業の取組を先進事例として県内に発信し、ハローワークにおける職業紹介や就職説明会等においても積極的にPRをしていきたいと考えております。それからワーク・ライフ・バランスの推進に関しましては、テレワークは働く場所や時間を柔軟にすることができる労使双方にとってメリットがあると考えられますが、良質なテレワークとするためには、適切に労務管理を行い、労働者が安心して働くことができるようにすることが非常に大切だと思っております。今年の3月に厚生労働省において、テレワーク導入に当たっての留意点を取りまとめたガイドラインが改定されております。

労働局としましては、その周知に努めていきたいと考えております。また、良質なテレワークを新たに導入する中小企業事業主に対して、今年4月から人材確保等支援助成金テレワークコースが創設されました。この活用促進について、県内でもしっかりと活用いただけるように取り組んでいきたいと思っております。

○アカデミア・コンソーシアムふくしま 山下治福島工業高等専門学校校長

アカデミア・コンソーシアムふくしまは、県内全ての高等教育機関がそれぞれの特徴を有したまま全体として豊かな教育機会を若者たちに提供するための連携組織として設立をされております。各学校法人が女性活躍推進法に基づいた事業主行動計画を策定し、この目標の達成に向け活動をそれぞれ行っております。そのうち特徴的な事業を2つほど紹介したいと思います。1つ目は、会津大学のITキャリアアップ塾の取組です。県内在住の一般職を対象にIT技術を習得させて、IT関連企業等への就職に結びつけていて、昨年日本工学協会2020年度の工学教育賞を受賞しており、大変すぐれた取組として高い評価を受けております。2つ目は、福島高専の取組です。NEW STARTという冊子を発行しており、本校学生の活躍を広く知っていただいて、理系女子の発掘と育成に力を尽くしております。NHKロボコンに出場した学生の紹介や寮生活の様子、福島の復興に向けた取組の1つとして、高レベル放射性廃棄物処分の研究に取り組んでおり賞をいただいております。活躍している女性を紹介することで、地元の女性に本校にも来ていただいて、また、社会で活躍してもらおうという取組をしております。ちなみに福島高専は、全国に51の高専がある中、女子学生が全体の3分の1を占めており、また、事務職員の半分は女性ということで、かなり女性の多い高専となっております。

議事(2) ふくしま女性活躍応援会議の今後の取組について

(男女共同参画に向けた取組や、女性活躍等について意見交換を行った。発言のあった団体は下記のとおり。)

○福島県女性団体連絡協議会 小林清美会長

昨年と今年はコロナのために、私たちも思うような活動が全然出来ず、自分の会からコロナは出さない、ということに専念いたしました。だんだん解除もされてきましたので、やっぱり思っているだけ、考えているだけでは、何も出来ないということで、活動を始めていきたいと思っております。また、皆様方が色んな活躍をしていることの情報をもとに、私たちもそれを参考に活動していきたいと思っております。ただ、女性団体グループ連絡会としては、高齢化しておりまして、今年も研修会なども開けませんでした。皆様方にアンケートをとり、皆様方の御意見を聞きながら進めてきましたが、やはり安全が1番

ということで研修が出来ず、大変残念だと思いましたが、このような機会に色んな勉強をして、また進んでいきたいと思っております。

○福島県農業協同組合中央会 菅野孝志会長

農家の方々は、具体的に果物関係で桃の摘果とかの現場では、非常に女性の方々が多く、男の人たちの経営に対する姿勢と、具体的な作業は女性の方々が結構されていることを考えますと、我々が気づいたのは、JAの組織の中での総代とか役員とかの方々にいかに女性の方々がきちっと枠組みとして整理をしながら登用していくかという制度設計をやはりトップの方々がきちっとしないといけないと感じまして、平成10年ころからその取組をしてきたという経過があります。そういう意味では、一定の成果は出ましたが、枠組みを設定するということは、もっと将来的には半々、長期的な目標がなく20%でいいと20%で止まってしまう。ここの取組の姿勢とか方向づけは明確にしないといけないと思っております。それと、いま若い人達が、どうしても産休後に、退職される方とかが結構いますが、私どもの地元のJAは、産休後に1人もこぼれることなく復帰するという事で昨年のジャパンSDGsアワードの中でも、JAとして初めて特別賞を受賞しました。結果として、5年、6年、10年近く、お金を投資しながら育った人が、そこで終わるってことは非常に損失です。そういう意味では、具体的に環境整備をすることによって、女性の方々が働きやすい環境を整備していく、ここが非常に大切だと思っておりますし、我々としても、さらにこれらの課題に向けて取組を強化していきたいと思っております。

○福島県森林組合連合会 田子英司代表理事会長

ただいま菅野会長さんからの御発言のとおり、連合会の役員、職員、各森林組合についても、やはり、まだまだ女性活躍の状況に至ってない。その現状を考えますと、林業の現場は過酷なイメージがまず1つでき上がっている。それから、約30年前から右肩下がりに木材価格が下がってきて30年前の3分の1の現実。そうすると、森林組合連合会、各森林組合、林業事業体の経営そのものが逼迫している状況で、女性活躍の場を考えると、勉強するとかについて、今までそういう状況にはなかったという反省があります。ただ、昨今のSDGsの目標設定や2050年のカーボンニュートラルの動きをとらえた時、やはり社会が森林、林業を放っておけない、そういう社会状況になってきたと考えております。ですから、それは我々にとって追い風であり、当然のことながら、その仕事量の増加であるとか、経営的な部分ばかりでなく組織における女性活躍の場、すなわち、役員数や職員数、適材適所の役職であったりということのを他の組織体を参考にしながら、時代に即した形態を目指していくいい機会をとらえてこれから取り組んでいきたいと思っております。

○福島県商工会議所連合会 渡邊博美会長

やはり今、女性というよりも、既に福島県の、やはり東日本大震災からの、この県の復興、あるいは生活の再建をするためには、女性の力は本当に貴重で、そして、大事な存在だったと思います。こういう形で、例えば思想とか、あるいは立場とかを超えていろいろな団体、そして、県のトップの知事が、こういう形で推進していくというのは本当に大切なことだと思います。ただ、まだコロナの影響とかいろいろな課題がありまして、点数はつけられないけれども、経済団体としてはまだまだ50点、いくかいかないかということですので、これを上昇させるために頑張っていかなければと思います。

○福島県男女共生センター 千葉悦子館長

男女共生センターが20周年を迎えるということで、昨年と今年度に様々な事業を予定しておりましたが、コロナの影響により延期している状況です。ただ、大分コロナも落ち着いてきましたので、何とか今年度中に幾つかの事業を予定しておりますので、ぜひ、応援会議の皆様も出席していただければと思っております。この間センターとしては、オンラインを多用して、オンラインとリアルをミックスするような形で取り組んできております。福島県はかなり広いですから、遠いところの方は大変歓迎するという声もありますし、子育て中のお母様方々も、今まではなかなかセンターの事業に参加出来ないことがありましたが、そういう方々も参加できるというような声もお聞きしております。これから、コロナが落ちついたとしても、そういった工夫をしながら今後進めていきたいと思っております。さらに、これは女性活躍とは直接関わらないものですが、生理用品を買うのにも苦労しているという若い女性たちの声があり、生理用品の寄附を募りました。たくさんの方から寄附をいただき、今その配布等を努めております。1人でも取り残さない、そういう社会をつくっていくということは、女性活躍推進の前提であり、非常に大事な課題だと思っておりますので、そういったことに今後努めていきたいと思っております。

4 閉会